

平成 19 年度労働安全衛生大会の実施報告

今年度の労働安全衛生大会は、10月4日（木）14時から開催されました。今回も、昨年度と同様に東京労働局の後援をいただくとともに、会員以外の方にも案内した結果、非会員30名（27社）を含む151名（98社）の参加でした。今年度は、例年どおり東京労働局から来賓挨拶と講演をいただく一方で、新たに無災害会員企業による具体的な労災防止対策のお話しをしていただき、ビルメンテナンスの独自性を発揮した大会になりました。

1 主催者挨拶—東京ビルメンテナンス協会 原田副会長

大会は原田副会長の挨拶で始まりました。原田副会長は、世間を騒がせた昨今の安全と品質に関わる死傷事故、あるいは業界内部における労働災害件数の増加などに注意を促し、「まさにこういうときに、私たちは社会的使命として、この安全衛生や品質に力点を置いた経営活動が求められているのではないのでしょうか」と参加者に問いかけました。

そして、労働安全衛生を向上させるためには、労働安全衛生管理体制の充実強化や労働安全衛生計画の作成と実行、あるいは労働安全衛生委員会等の編成と諸活動の推進が必要であり、「こういったことの日々の積み重ねが大切」と述べられました。

一方、労働安全衛生を社内的に推進していくためには、「何といたっても経営トップの姿勢が最も重要」とあり、「経営トップが労働災害を発生させないという固い誓いと方針を明確にして、先ほど述べましたような安全衛生管理体制等を強化していく」ことが求められると経営トップに改めて決意を促しました。

そして最後に、「協会会員以外の方々にもご参加を呼びかけしました結果、多数のご参加をいただいたことに改めて御礼を申し上げ業界の一員として、労働災害のない、明るいビルメンテナンス業にしていくことを願っております」と挨拶を締めくくりました。

2 労働安全標語入選作者表彰

続いて、労働安全標語入選作者表彰が行われ、入選作者に原田副会長から賞状と記念品が贈られました。入選作品と入選者は次のとおりです。なお、今年度の応募作品数は288点（但し1社10点までに限定）でした。

○慣れた作業にかくれた危険 無理と油断は事故のもと		
	（株式会社オリバー	加藤 淳 様）
○やったつもり 見たつもり つもりをもって 事故のもと		
	（日本ビル・メンテナンス株式会社	一杉明伸 様）
○決めたこと 守る勇気と 続ける努力 常に持とう 安全意識		
	（東京ガスビルサービス株式会社	佐々木定雄様）
○安全は 他人に頼るな 任せるな 点検・確認 自己の目で		
	（栄和建物管理株式会社	中野知加様）
○早寝 早起き “自己管理” 自分で守ろう “健康管理”		
	（興和ビルメンテナンス株式会社	小林三雄様）

- あんな事 こんな事でも ほうれんそう（報告・連絡・相談）
（陽光ビルME株式会社 古川徹也様）
- 安全は 小さな事の 積み重ね ルール守って 安全作業
（株式会社ジャレック 渡邊のり子様）
- 始業前 人もマシンも安全チェック 今日笑顔のゼロ災職場
（株式会社アネシス 小泉三千代様）
- 一人ひとりが 責任者 今日無事故の 安全作業
（日本ビルサービス株式会社 稲葉保子様）
- 身のまわり 整理整頓 心がけ きれいな現場の 事故はゼロ
（株式会社ニチボウ 伊藤優子様）

3 労働災害無災害企業表彰

続いて、労働災害無災害企業の表彰に移りました。これは、会員労使の労働安全意識を高揚し、自主的な労働災害防止活動の推進を支援するために、無災害記録（3年、5年、7年）を樹立した会員企業を表彰するものです。

今年度の受賞企業は7年間無災害が3社、3年間無災害が9社で、それぞれ原田副会長から記念の盾が贈られました。

7年間（平成12年4月1日～平成19年3月31日）無災害

株式会社 アネシス 様
三協 株式会社 様
東海産業 株式会社 様

5年間（平成14年4月1日～平成19年3月31日）無災害

なし

3年間（平成16年4月1日～平成19年3月31日）無災害

株式会社 石川ビル美装 様
エム・ユー・テクノサービス 株式会社 様
株式会社 関東コーワ 様
株式会社 ザクテクノサービス 様
平成ビルディング 株式会社 様
トーションファシリティーズ 株式会社 様
東都管理工業 株式会社 様
日本整美 株式会社 様
株式会社 ヤエス 様

4 来賓挨拶—東京労働局労働基準部 成毛安全課長

引き続き、東京労働局労働基準部安全課長 成毛 節様から来賓挨拶が行われました。成毛安全課長は、次のように話されました。

「本年度もこのように多数の方が、また先ほどの話では、非会員の方もご出席なされているということですが、大変皆様方ご熱心だなというふうに感じているところでございます。ぜひともこの熱意を、また各企業にお戻りになられまして、従業員の方、あるいは関係請負の方々にもお伝えいただきまして、この労働災害防止に努めていただくようお願い申し上げる次第です。

また、先ほど表彰を受けられた方につきましても、改めましておめでとうございます。引き続き、この安全衛生につきましてご努力をお願い申し上げます。

次に、成毛課長は企業の原動力が従業員、人であり、その人を守る安全衛生は経営の基本であるということに注意を喚起し、そのためには経営者の安全に対する「気迫」が大事だということで次のように続けられました。

「先ほどから出ておりますが、経営トップの姿勢というのがもう一つとして挙げられるところです。いくら従業員に安全衛生の意識を持つといわれても、経営者の方々の災害防止の姿勢というか気迫というものがないと、なかなか従業員の方は取り組みがたいというふうになると思います。経営者にまず災害防止をするのだと、そして、いい仕事をしてもらうのだというような気迫を出していただく、それがまた従業員に伝わって、従業員もいい仕事をするのだ、災害防止をするのだというふうな気持ちになっていくと思いますので、気迫を前面に出した取り組みをお願いするところでございます。」

5 講演—東京労働局労働基準部 杉浦主任安全専門官

続いて、東京労働局労働基準部主任安全専門官 杉浦 純様によって「労働安全衛生について」というテーマで講演がなされました。

杉浦主任安全専門官は、各種の統計資料に基づいて、ビルメンテナンス業ではこの5年間のうちに死傷災害が2割増えたこと、事故の型としては転倒、墜落・転落が多くを占めていること、墜落・転落の場所としては下りの階段、脚立で多発していること、安全帯の不使用による事故が多いこと、2メートル未満の高さの事故がかなり見られることなどを指摘しました。

そして、今日まで無災害で来たとしても、明日無災害である保証はないとして、次のように話されました。

「実際、たくさんの皆さんの方がいらっしゃって、たくさんの現場があります。しかしある意味で500何件しか事故が起きていないとも言えるわけです。墜落に至ってはほんの一握りです。

私どもとしては、そこをまずお願いをしたい。今、この時点で事故がない、けががない、誰もうちの社員はけがをしていませんと言われますが、それが明日もそうかという保証は何もないのです。大きな死亡事故があった会社で、私どもが調査する中でお聞きすることがありますが、会社が始まって以来、初めてこんな大きな事故を起こしてしまった。今まで何にもなかったのに、今まで指一本だれもけがしたことがないのに、突然死亡事故が起きてしまったという会社があります。つまり、今日今の段階で事故がなくても、明日同じように事故がないという保証は何にもありません。」

また、興味深い事例として、高速道路の料金ブースの清掃時に起こった死亡事故を紹介しました。それは、2メートルくらいの高さの料金ブースにはしごを掛けて昇りかけているときに転落してしまった事故です。

その原因は、はしごの2段目のステップが5センチほど沈むというような些細なことでした。その時、作業者は片手に柄の付いたブラシを持って昇っていて、それに加えて足元がホースの水で濡れていたため、足を滑らして転倒し後ろにひっくり返り、脳挫傷で亡くなったということです。地上60センチの墜落死亡事故です。

「はしごがなぜ曲がったかという点、そのはしごはふだん会社の車庫にしまってあったのだと思いますが、あるとき、車を入れるときに、バックしてきた車がそのはしごに触れてしまって、ちょっと下をゆがめてしまったというのがあるから、それをそのまま現場へ持ってきた。今、言いましたように、そんな差しさわりのあるものではないと思ったわけです。大きく沈み込んでしまったり、折れてしまったりという話ではなくて、ちょっと沈み込む。それだけのものだったのです。その結果死亡事故が起きたのです。」

以上のお話をされた後に、杉浦主任安全専門官は最後に次のように締めくくりました。「事故が一たん起きると大変な費用がかかります。本来は必要としないお金がかかってしまいます。事故が起こると、どれだけ費用がかかるのか、どれだけ手間暇がかかるのかということをも十分踏まえて、明日起きないように十分に管理をしてもらう、そのための事前の危険性(リスク)の把握とそれに的確に対処をするということ、ぜひ習慣づけていただきたい。」

6 労災防止に関するお話し—三協(株)代表取締役 三田春彦様

続いて、本年度の7年間無災害受賞企業である三協(株)代表取締役の三田春彦様から「労災防止について」という演題でお話しをいただきました。

このプログラムは、昨年度もご臨席いただいた東京労働局から、労働局の担当官のお話だけでなく、業界の講師による具体的な労災防止の講演をされるといいのではというアドバイスをいただいたことに応えたものです。

三田社長は、初めに「特別なことは行っていない」と断ってから社内の安全活動の実情を話されました。安全対策としてはまず安全衛生委員会の活動を紹介され、毎月第1週の水曜日の定期開催であり、そこでヒヤリハットや様々な安全衛生に関する話題が話されます。また、KYTの運動も行っていますが、KYシートは社員自らが絵を描いて作成しています。

8月・9月頃と1月・2月頃には、全社の安全教育を実施し、社長及び安全管理者が話しをするとともに、安全に関する手作りの資料を作成しています。

このように「特別何をやっているか」といってそんなに特別なことをやっているわけではない」と話されながらも、基本的なことを着実に実行していることがうかがえました。また、常に社員に安全のことを言い続けていると話され、安全への取り組みの根本な考え方を次のように述べられました。

「人1人亡くなったということがあれば、私たちからすれば、ただ1人亡くなっただけと思われがちですが、やはりその従業員の家族からすれば、本当に大変なことです。当然、会社

としても人が1人亡くなるということは大変ではありますが、その社員の家族、皆さんにとっては本当に重要なことです。ですから、そういう人の命の重さを認識させるためにも、そういう講習、それから、安全衛生とか健康については十分注意するように、その都度話しているつもりでございます」

7 大会宣言－東京協会労務管理委員会 山田担当理事

次に、労務管理委員会担当の山田理事から以下の大会宣言が読み上げられた。

平成 19 年度労働安全衛生大会 大会宣言

私たちは、経営トップが率先して、職場における安全の重要性を再度認識し、リスクアセスメントやリスク低減措置を実施するなど、社内全体で安全管理活動の充実・強化を積極的に進めます。

また、健康診断の実施、健康管理体制の整備、メンタルヘルス対策の実施など、健康管理と健康づくりに取り組んでいきます。

平成 19 年度労働安全衛生大会を契機に、安全で健康な職場づくりに努めていくことをここに宣言します。

平成 19 年 10 月 4 日 社団法人東京ビルメンテナンス協会

8 閉会の挨拶－東京ビルメンテナンス協会 山口副会長

最後に、閉会のことばとして、山口副会長から、参加された方々及び本日も来席いただいた東京労働局への感謝の言葉を申し上げ、次のように大会を締めくくりました。

「東京協会も、新しい公益法人の道を進もうとしている中で、この大会も東京労働局のご指導を受ける受け身の立場から一歩進めて、能動的な体制を整えたいということで、きょうは、会員会社の中で7年間無災害の三協株式会社の三田社長にお話を伺うなど、ギアを入れかえております。将来に向けて、その成果が大きな形で出てくることを希望しております。皆様方のご支援をよろしくお願いしたいと思います。」